

人と知と時をつむぐ「とみやの環」

富谷市は「住みたくなるまち日本一」の実現に向け、まちづくりを進めています。丘陵地の中に新日が融合した歴史と魅力のある市です。私たちは「ひと」をつなぎ、時をつむぎ、未来をつくる「とみやびと」のための複合施設を提案します。

01 複合施設としてのシナジー効果による利用価値、共有化

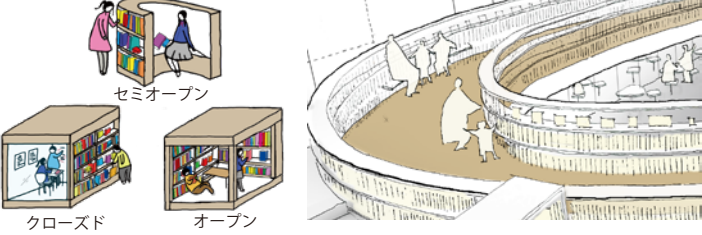
知的創造の文化装置「とみやの環」が歴史を紡ぎ、未来を育む

富谷町の時代から富谷市では、図書館は公民館という市民活動の場に寄り添っていました。2016年、町から市になって間もなく行われた「次世代型図書館づくりの市民参加ワークショップ」以来、市民の皆さんは計画からシームレスな図書館づくりを進めてきました。同時に「スイーツステーション」「児童屋内遊戯場」も単独での整備計画が進められてきましたが、今回その輪を広げ融合させようという計画に賛同し、**新しい複合公共空間モデル**を提案したいと思います。本計画は、右図のような異なる性格を持った空間が融合することでさまざまな活動が染み出してくるパレットとなる場です。ここでは、**ひと・もの・ことが出会う**、触発することで相乗効果が生まれ、**富谷の歴史や地域資源(リソース)**を紡ぎ、共有(シェア)します。魅力的な「ひと」を育て、活力ある「こと」が興り、持続ある「まち」が創られる。そんな**未来を育む**知的創造の文化装置「とみやの環」を提案します。

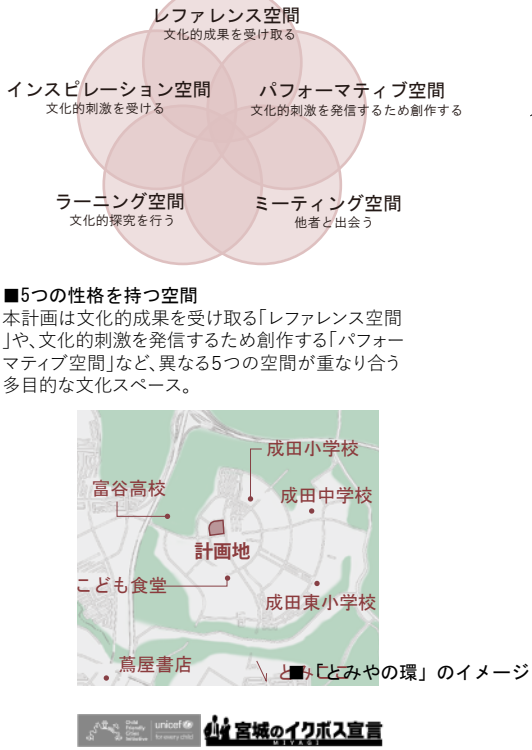
02 施設配置及びフロア構成と各機能のゾーニング計画

「とみや学びと交流の広場」を核として全ての機能が繋がる空間

各施設の充実を図るために成田公民館と本複合施設を連携し、「とみやコネクトリング」でつなぎます。今までどおり西側駐車場利用者も、新たにできた東側駐車場利用者も双方の建物を通り抜けてどちらへもアクセス可能です。本複合施設の共有エントランスに入ると、北側が市民図書館、南側が屋内児童遊戯施設、西側が公民館へと緩やかなスロープで繋がります。中央の「とみや学びと交流の広場」は、上昇する「とみやコネクトリング」に囲われ、ひと・もの・ことが出会う市民活動の広場です。ここには図書館の大きなサービスカウンターを設け、セルフサービス機能をここに集約します。スイーツステーションはこの広場に融合して配置します。運営の異なる機能が混在しても、有料ゾーンの設定、異なる開館時間に対応可能な仕掛けをつくります。2階図書館へ上がる「とみやコネクトリング」には本棚やベンチなどアクティビティを誘発する仕掛けをつくります。2階はフラットな床とし、大きなワンルームの屋根の下にニーズに合わせてオープン、セミオープン、クローズドな小部屋やコーナーを仕切りや家具でつくります。児童屋内遊戯施設は南側1-2階に配置され、屋外のランドスケープとのつながりを促し、気候の良い時期には、外でも遊ぶことのできる広がりをつくります。

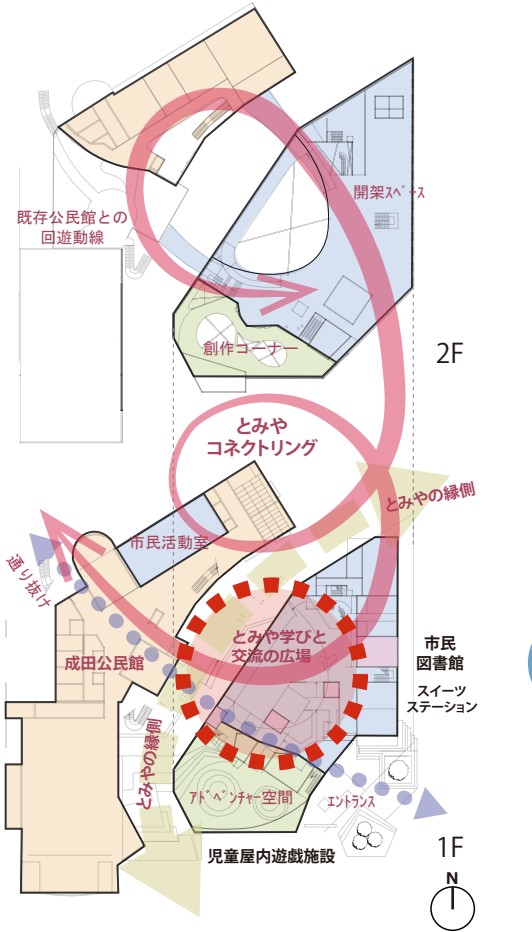


■様々な開き方の「アーキファニチャー」 ■アクティビティを誘発する とみやコネクトリング

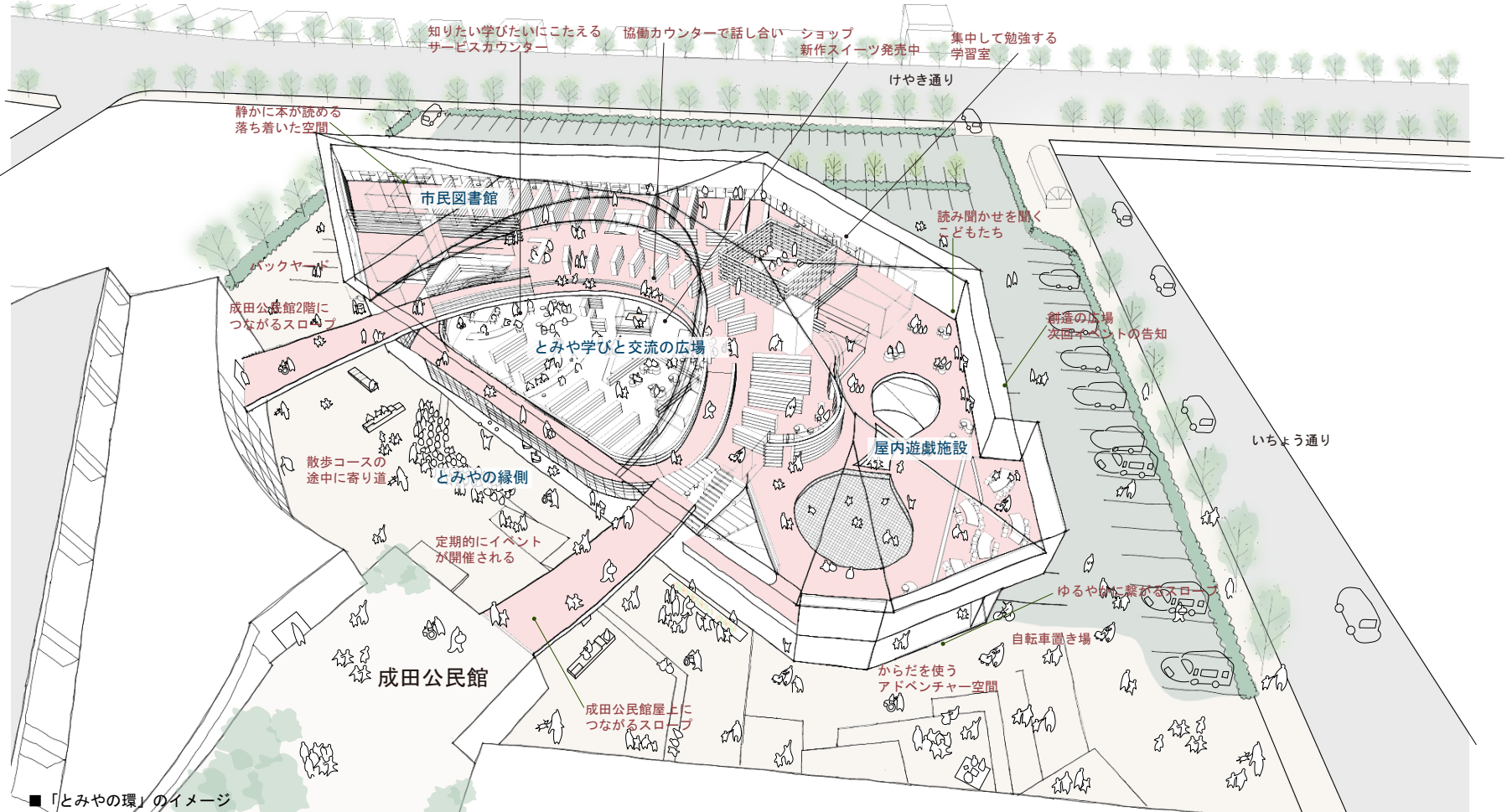


■5つの性格を持つ空間
本計画は文化的成果を受け取る「レファレンス空間」や、文化的刺激を発信するため創作する「パフォーマンス空間」など、異なる5つの空間が重なり合う多目的な文化スペース。

■富谷に存在する様々なリソース
富谷町の時代から愛され続けた公民館、学校図書館、近隣に位置する宮城県図書館や鳥屋書店など様々な情報リソース、とみこや子ども食堂など地域を支える人的活動リソース、豊富な農産作物などの食料リソースなど、たくさんの資源が富谷には存在する。

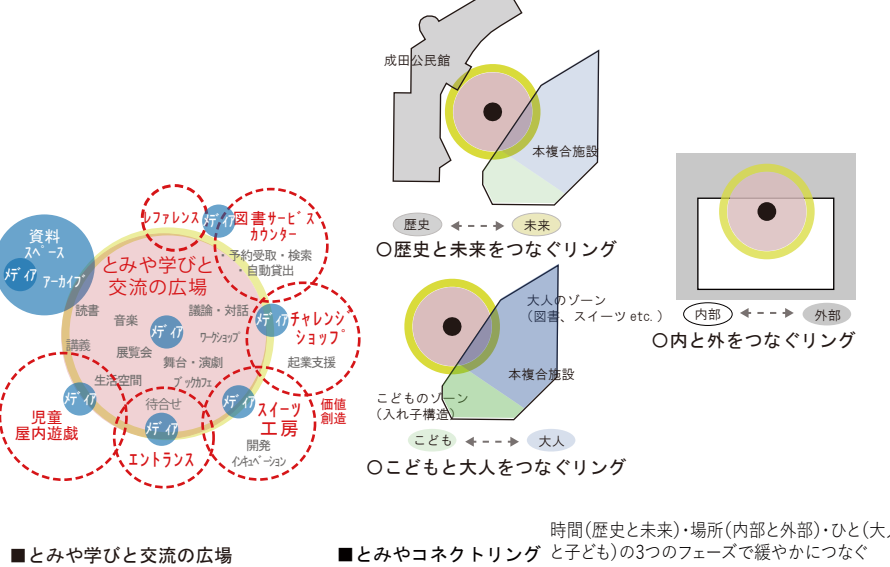


■フロア構成ダイアグラム



03 多様なニーズを持った全ての利用者に配慮したアクセシブルな施設 インクルーシブな回遊空間「とみやコネクトリング」

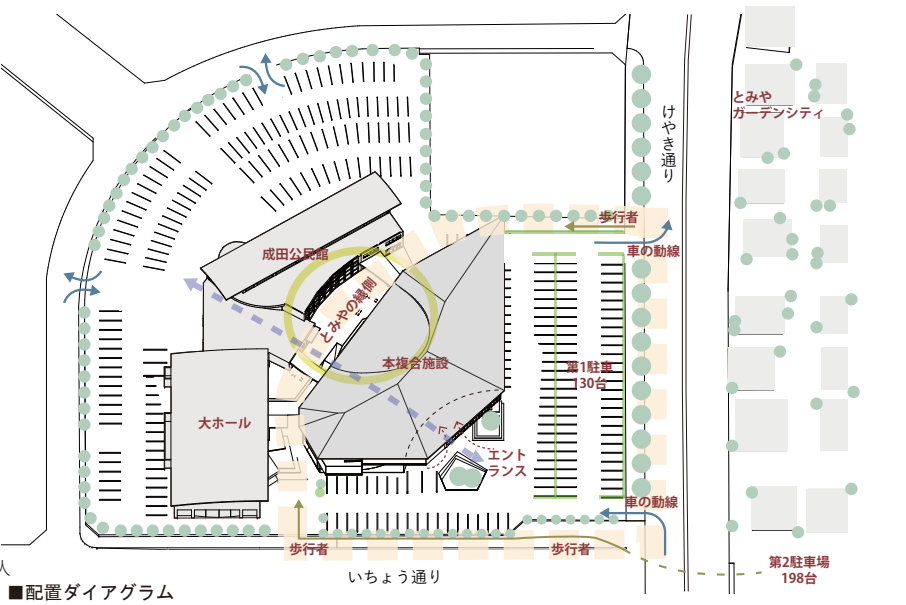
健常者とハンディキャップを持った人が同居するインクルーシブな空間を目指します。本施設は、すべての場所の主な移動はスロープで行います。「とみやコネクトリング」の回遊動線により、視界をつなぎ、見守りができることで館内外の安全性を担保します。また子育ての視点でも、様々な場面を見渡せることで、次の成長段階への見通しや好奇心を持てるようになります。一方でメイン動線から離れた静かな場所も用意し、時には一人になるそれぞれの居場所も用意します。1階図書館サービスカウンターからは館内全体の様子が伺え、利用者にとってもスタッフの居場所が分かりやすく拠り所となります。通常の本の貸し借りだけでなく、来館者へ生きた情報のアクセスをお手伝いする場所となります。市民参画のワークショップにより、インクルーシブデザインのためのユーザー中心、参加型デザインの方法について提案します。ふらっと訪れた人にとっても居心地の良く、発見のある街場のような施設を目指します。



■とみや学びと交流の広場

04 まちづくり及び景観との調和と成田公民館との連携 成田公民館と共生し、地域と環境をつなぐ「とみやの緑側」

成田公民館と本複合施設に取り囲まれた安全な「とみやの緑側」は、富谷ガーデンシティの円環状の街区や緑に呼応し、様々なアクティビティがまちの中に広がっていきます。周辺は車中心の生活環境ですが、歩行者動線を意識し、歩いて楽しいまちづくりにも寄与します。敷地全体のランドスケープは勾配を利用して、スロープや段々状の床や緑陰駐車場をデザインします。本複合施設はボリュームを抑えた2階建ての建物とし、大きく湾曲したエントランスは利用者をやさしく招き入れます。「とみやコネクトリング」でつながれた成田公民館と本複合施設は、両施設の運営連携や維持管理、施設の相互活用を行い、市民へは生涯を通じた知的創造の文化装置として継続したサービスを行ないます。成田公民館の図書室が移転した後は、市民活動をサポートする居場所にもなります。



■配置ダイアグラム

05 持続可能な管理運営上の仕組みや地域コミュニティ

仕込み(人・ソフト)×仕掛け(もの・ハード)=持続可能な仕組みつくり

「ひと」をつなぐことで**仕込み**をつくり、そしてその「ひと」を活かし輝かせる**仕掛け**(もの・ハード)を提案することで、**良い仕組み**(こと・運営)をつくります。

仕込み 富谷市は既に子育てネットワークや子ども食堂などの活動が盛んです。本計画はこれらをつなぐ活動を助長します。中高生も参加した地域情報誌やSNSでの発信など、**CFC**(ユニセフの子どもにやさしいまち)**実践自治体**として、「**子どもの参画**(参画のはしご)」を促します。計画段階からわくわくする未来を担う「**とみやびと**」を育てます。

仕掛け 本複合施設には地域の人が能動的に**施設運営に関わる**ことのできる場を提供します。それら異領域の人々がインフォーマルな関係性の中で触発できる場所です。

06 ZEB化の提案および維持管理コスト低減

永く愛される施設をつくるエンジニアリング

■ZEB性能向上

建物の形状、配置、**断熱性能**などに配慮し、また**創エネルギー**(太陽光パネル等)を設置することで、「**Nealy ZEB以上**」を目指します。発電は本施設内で系統連系に利用し、**蓄電池利用**でピークカットし、**ランニングコスト低減**を図ります。場合によっては事業者による**PPA事業**を行うことも視野に入れて地域全体で検討します。

■季節に応じた空調換気と断熱の考え方

空調・換気エネルギー使用は消費エネルギー量全体の約50%近くになり、十分な断熱を行なうことでこれを半減させます。**通風を活用**することで空調・換気エネルギーを削減します。中間期卓越風を十分に利用できるように南面に開口部を設け冬期の北西風を防ぐための**気密性・断熱性**に配慮します。

■Embodied Carbon

建築に関わるEmbodied Carbonに配慮し、「富谷市「**ゼロカーボン戦略**」」の先進事例とします。コンクリートや鉄に代わって**木質木材**を多く利用し、建物の各ライフステージにおいて**温室効果ガス排出量を低減**させます。

■建物の長寿命化

シンプルな構造や形状とし、間仕切りの変更や設備機器の交換など、**時代の変化に対応**します。設備や仕上げのメンテナンスサイクルに合わせて修繕しやすい工夫をします。

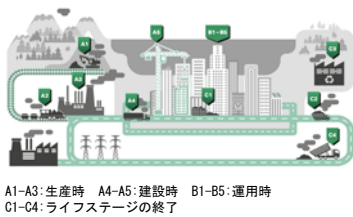
■レジリエンス(火災・地震への対応)

耐火性能を重視すると、今までの建築はどうしてもコンクリートや石膏ボードに頼らざるを得ませんでした。こういった従来型の工法に対して、**森林の維持・環境の保全**に配慮し、**耐火建築物**においても「**木質化率**」を高めることが望まれています。本計画は、耐震性能とのバランス鑑み、2階外壁までは鉄筋コンクリート造、屋根は「**燃え止まり型木質耐火構造部材**」の併用構造を提案します。

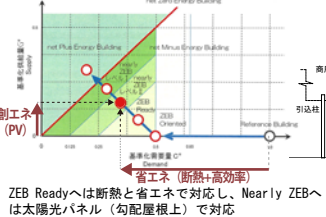
■NASCA 木造・木質事例



■建築に関わるEmbodied Carbon



■ZEBの段階的評価



■設備システム図

